

<平成 26 年度「東北地域食育活動コンクール」表彰式典が行われました！その4 H27.3.6
>

今回は、平成 26 年度「東北地域食育活動コンクール」の「食で紡ごう！笑顔」分野で[審査部会長賞]を受賞された「特定非営利活動法人復興支援奥州ネット（岩手県奥州市）と「喜多方市立豊川小学校（福島県喜多方市）」の 2 つの団体をご紹介します。

「特定非営利活動法人復興支援奥州ネット」は、東日本大震災で家も畑も失った被災者がいきいきと農作業ができるようにと、平成 24 年から岩手県奥州市前沢区にある 50 アールの畑を利用し発足。

被災者とともに十数種類の野菜を作り始めました。

夏の収穫祭には地元の子どもたちも手伝い、収穫した野菜をその場で使いカレーを作り、一緒に収穫を喜んでいます。

おばあちゃんの笑顔が良いこと、避難者の方たちが元気をもらっていると感じられること、野菜づくりをベースに地域の人から子どもたちをまき込み、農業を知る良い活動であることが評価されました。



【ほらジャガイモがこんなに！これからカレーを作って食べるんだ！】



【この畑でとれた野菜いっぱいのカレー。俺お替り 3 杯した！】



【内陸避難者の方も子供たちに食べてもらう野菜をこんなに収穫！】

理事長の千田敏彦（ちだ としひこ）さんは、震災が起きた時に昔お世話になった沿岸地区が被災し、ひどい状態を目の当たりにしたとき、何とか支援しなければという思いで、周りに「米一升運動を起こそう」という話をし、米や野菜を集めて被災地に届ける活動が、NPO 法人である奥州ネットの立ち上げのきっかけとなった。

私は民生委員もやっており、仮設住宅に何度も足を運んだがトラブルも多く、住民から笑顔がどうしても出てこない状況だった。このような状況で何かできないかと考え、「僕が畑を借りるから一緒に農業をやりませんか」という話をした。

5 年前までは保育園の園長をやってきたので、農業はまるつきり素人だったが、荒れた農地を整備しようと奮闘しているときに、「一人ではムリだから」とたくさんの方が手を貸してくれた。また、共同農場をやりたいと言った時に産直をやっている農家の方々が加わってくれた。

そして、仮設住宅には子どもの声が必要だと感じ、「焼き芋」や「芋煮会」などを子どもたちと一緒に活動をするようにした。

震災で孫を失ったお年寄りからは「孫の手に触った」と喜んで頂き、泣いて帰る人たちもいた。

この受賞と一緒に活動してきたみんなが大変喜んでいて、賞状を持ち帰ったら受賞のお祝いのパーティーをやることになっています。

・・・と大変感動的なご挨拶を頂きました。

次に同じく審査部会長賞を受賞した「喜多方市立豊川小学校」をご紹介します。

豊川小学校は、喜多方市が推進する小学校農業科に平成 21 年度から取り組み、豊かな情操やふるさとを誇りに思う心を育てています。原発事故後も、きめ細かい放射性物質のモニタリングと保護者や地域の理解により農業科が継続できています。今後もみんなで収穫の喜びを味わいながら、食農教育に取り組んでいきます。

地域の人との交流が見てとれること、子どもたちの笑顔が生き生きとして収穫の喜びが感

じられることが評価されました。



【地域の方の指導を受けながら子どもたちがいもの苗を植えました】



【いよいよ収穫。夢中になっていも掘りに取り組む子どもたち】



【苦勞してやっと手にした大きないもに満面の笑みの子どもたち】

喜多方市立豊川小学校校長の松原 実（まつばら みのる）さんは、挨拶で・・・
この受賞を明日の朝に学校の放送で子供たちに報告するのが楽しみです。

蔵と喜多方ラーメンで有名な喜多方市は平成 19 年度から教育特区の認定を受け、全国でも

珍しい農業科という科を喜多方市の17の小学校全部に設置致しています。

農業を通して命、友達、自然を思い慈しむ豊かな心を育て、郷土を理解し郷土を誇り、思い愛す心を育てることが本校の農業科の目標です。

稲作をしたり、栽培した豆で納豆を作り「納豆パーティー」をしたり、きなこにしてもちパーティーをしたり、大きなサツマイモを掘ったりする農作業や、会津の伝統料理の「こずゆ」を作り郷土料理について学ぶなど、多様な活動をしている。

幼稚園児やお年寄りなど、地域の人たちともふれあいながら子供たちはたくさんのことを学んでいる。

今後も児童1人1人に対し、豊かな情操と故郷を愛する心の育成となるよう農業科の活動を進めていきたい。と、お話していました。

どちらも、たくさん笑顔が生まれている素晴らしい活動だと感じました。

今後も食育活動を通じて、更にすばらしい笑顔がたくさん生まれる活動となるよう心から願います。